



SUSTAINABLE

CAMPUS REPORT 2021

Mejiro University and Mejiro University College



目白大学・目白大学短期大学部





目白大学では、SDGs（持続可能な開発目標）という、人類の将来について世界的な合意が得られた目標の実現のために、全学をあげて取り組んでいます。2021年度では、第10回ECOアクションや公開講座「SDGsと大学教育」の開催のほか、いくつかの個別のゼミでもSDGsに関わる活動が行われました。そして、2022年度からは新宿キャンパス全学部の学生を対象に「SDGs副専攻」課程を開設することとなりました。わずか半世紀前は、ほぼ経済成長一本やりだった社会が、世界的に「持続可能な社会」に向かって進んでいるという現実を、私たちは自らに関わるものとして捉えることが大切だと思います。そして、学生のみならず、本学の学びにおいて、その課題の解決に向けて自ら策を考え、行動し、それぞれができる範囲で社会に貢献できるよう取り組んでいただきたいと思います。この「サステナブルキャンパスレポート2021」で、その一端をご覧いただければ幸いです。

> COVID-19 RESPONSE

新型コロナウイルス対応

2020年度と2021年度、目白大学では徹底した新型コロナウイルス感染防止対策を実施しました。ハード面では自然換気のみならず、機械換気設備の更新や新設を行い、全教室・事務室に空気清浄機を設置しました。同時に換気を徹底することで空調負荷が増大するため、南側の窓には遮熱フィルムを導入しました。また学生の「密」を避けるため教室や食堂の座席にシールを貼り、全教室に飛沫防止のため卓上パネルを取り付けました。さらに正門近くに検温所（サーマルカメラ）を、またキャンパス各所に非接触型体温計や手指消毒用アルコールスタンドを設置しました。その他、遠隔授業対応として、Wi-Fiアクセスポイントを新宿キャンパスには140カ所、さいたま岩槻キャンパスには64カ所増設し、遠隔授業用のスタジオや機器類も整備しました。遠隔授業に関しては、LMSをフル活用し、同時双方向型やオンデマンド型の授業を実施。新型コロナウイルス関連の公認欠席手続き、追・再試験申請手続き、他学科履修手続き等、すべてオンライン化し、窓口対応を回避しました。とくに新入生のためにオリエンテーション用動画を作成し配信しました。基本的な感染防止対策としては感染予防マニュアルを策定し、マスク着用、三密回避、手指消毒、入構時の検温、不要不急の外出や会食の自粛等呼びかけました。学生を含む学園関係者等を対象にワクチンの職域接種を実施しました。医療系のさいたま岩槻キャンパスでは新入生全員にフェイスシールドの配布も



空気清浄機



卓上の飛沫防止パネル



座席シール



手指消毒用アルコールスタンドと体温計

行いました。緊急事態宣言等、感染状況や政府の指針に応じて、入構制限を行い、海外渡航も原則禁止（感染症危険情報レベル2以上の国・地域）。課外活動や各種行事も大半を中止。ただし2021年度の大学祭は本学初のオンライン開催としました。学生支援（政府によるものを除く）については、遠隔授業準備のための支援金、教育後援「桐光会」遠隔授業奨学金、同応急支援奨学金（対象をコロナ禍による困窮学生にも拡大）、遠隔授業実施に伴う環境整備のための無利子貸与、タブレット端末貸与等、多方面の支援に取り組みました。

> EXTENSION COURSE

さいたま市委託事業公開講座

目白大学さいたま岩槻キャンパスでは、保健医療学部と看護学部が毎年交互にさいたま市委託事業として公開講座を開催しています。2021年度は6月3日～7月1日の5日間全10回にわたり、「伸ばそう健康寿命～健康を支えるリハビリテーションの知識と技術～」をテーマに、保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科）及び自然科学研究所クリニックの教員がそれぞれの専門分野を活かした内容で、セルフエクササイズや認知症、聞こえやめまい等、健やかな生活を送るために自分でできる予防や対策について座学と演習を交えた連続講義を行いました。講座終了後には、目白大学とさいたま市教育委員会から受講者全員に修了証書が授与されました。



公開講座の様子

> SPECIAL FEATURE

東洋経済SDGs大学特集

2021年7月、東洋経済新報社から『東洋経済ACADEMIC』の「SDGsに取り組む大学特集」第3弾として「アフターコロナの次代へSDGsの実践で変革する社会」が刊行されました。その中の「未来を創る大学の実践」コーナーで、持続可能な社会を築くべく多彩な個性を生かした取り組みを推進する全26大学の1つとして、目白大学・目白大学短期大学部の取り組みが紹介されました。本学のコンセプトは「コロナ禍でも活動をやめない！SDGsのローカライゼーションを推進し、持続可能な社会づくりの担い手を育てる」。エコキャンパスづくりとSDGsの達成に向けた全学的な取り組み、および本学教員による研究活動や社会貢献活動と学生たちによるゼミ活動や地域連携活動に焦点を当てた実践事例を取り上げています。



東洋経済SDGs大学特集

目白大学の環境対策

省エネルギー対策

- 集中制御空調システム
- 高効率型空調機
- ヒートポンプ式給湯器
- 氷蓄熱システム
- LED照明
- 人感センサー
- 昼光センサー
- インバーター式蛍光灯
- ソーラーシステム

緑化対策

- 樹木管理
- 屋上緑化
- 緑のカーテン
- 透水性インターロッキング

省資源対策

- ごみの分別
- 中水道システム
- 傘のシェアリングサービス
- 再生紙の利用

その他の対策

- 遮熱フィルム
- UVカット窓ガラス
- Low-E複層ガラス
- 全熱交換機
- 重力換気窓
- 喫煙所以外の全面禁煙



太陽光発電



高効率空調機



氷蓄熱システム



屋上緑化



中水道システム

ECOアクション

2021年10月24日、第53回桐和祭(オンライン開催)の2日目、大学主催企画「MEJIRO TUBE」の中で「ECOアクション2021～プレゼンテーション&ディスカッション～」を開催しました。ECOアクションとは学生自らが企画し実施する環境プロジェクト。目白大学では毎年「環境問題という地球規模の問題に対して、私たちはどんなことができるでしょうか？地球のため、未来のため、どんな小さな取り組みでも構いません。足元から、今日から、なにか行動(アクション)を起こしましょう!」と呼びかけ、学生たちに企画を募集しています。2020年度はコロナ禍で活動ができず中止となりましたが、2021年度は記念すべき第10回ECOアクションに4件の意欲的な応募があり採択されました。その4団体による活動報告(プレゼンテーション)と意見交換(ディスカッション)をZoomによるライブで視聴していただきました。



オンラインプログラム

2021年度 採択・実施企画一覧

- 1 フードドライブを活用した食品ロス削減 (社会情報学科 田中ゼミ有志)
- 2 新宿区「食品ロス削減協力店登録制度」の認知度アップに向けたアクションプロジェクト (地域社会学科 飛田ゼミ)
- 3 地球を守れ! エシカルジャー! (児童教育学科 石田ゼミ)
- 4 すぐろくでSDGsを探索 (児童教育学科 新聞委員会)



SDGsすぐろく



フードドライブ



プレゼンテーション&ディスカッション(オンライン)

SDGs活動

4 世界の美しい自然をみんなに



教育活動でSDGsに貢献する



人間学部児童教育学科の石田ゼミは、教員を目指す学生が集まっており、教職課程で育んだ力を生かして、SDGsについて教育活動を実施しています。2021年度は、『地球を守れ! エシカルジャー!』というデジタル教材を作成し、

つくば市の小学5年生を対象にオンライン授業を行いました。子どもたちが、主人公と一緒に正義の味方「エシカルジャー」からエシカルについて学び、最後は、患者を倒していくストーリー仕立てです。子どもたちからは、「エコは知っていたけど、エシカルは知りませんでした。自分にできることをやってみます」といった感想をもらいました。以下、その教材です。ご覧ください。

<https://youtu.be/rcE8mRvgYHc>

9 産業と経済活動の発展をつくる



東京の大学生と島根の中学生をメディアでつなぐ



メディア学部メディア学科の牛山ゼミ2年生は、メディアを活用した社会貢献活動の一環として、株式会社ラックICT利用環境啓発支援室と連携し、島根県吉賀町六日市中学校の2年生を対象に、ICTリテラシー啓発のためのオンラ

イン講座の開発に取り組みしました。ゼミ生たちは、最初に中学生とオンラインで交流し、その後5ヶ月かけて調査や講座で用いる動画の撮影・編集などを行い、「情報モラル」「情報セキュリティ」「消費者トラブル」に関する3つの講座を開発。3月に、オンラインで講座を実際に開催しました。事例や演習などを交えた参加型で行ったことで、参加した中学生から、「SNSの危険性を知ることができた」「中学生の私でも理解できた」などの高評価を得ることができました。

12 つくる責任 つかう責任



SDGsをテーマにしたPBL型のゼミ活動



社会学部社会情報学科の柳田ゼミは、毎年、PBL型教育を導入した活動を行っています。2020年度～2021年度は自分たちと同じ若者世代にSDGsを認知してもらうために、2つのプロジェクトを実施しました。1つ目は度重なる

災害に見舞われた熊本県に義援金を贈るため「くまモン」のデザインをあしらった竹ストローの製作を企画しました。さらに資金調達のためクラウドファンディングを募り、商品化を実現しました。2つ目は新宿にあるSDGsカフェ&バーの協力を得て、廃油を用いたキャンドルづくりのワークショップ、キャンドルナイトを開催しました。ゼロからすべての企画・運営を行い、企業や自治体との対外交渉を自ら行った経験は、創造力や自立心の育成へとつながっています。

12 つくる責任 つかう責任



食品ロス削減を通じた地域づくりとひとづくり



社会学部地域社会学科の飛田ゼミでは、「SDGsの視点から地域社会の未来を創造する」をポリシーに掲げ、サステナブルな地域づくりの担い手となる人材育成(地域づくりとひとづくり)を目指すプロジェクト型のアクティブラーニングを

展開しています。2021年度は、新宿区ごみ減量リサイクル課のご支援をいただき、『SDGsアクションフォーラム2021～新宿区「食品ロス削減協力店登録制度」の認知度アップに向けたアクションプロジェクト～』を開催。新宿区の取り組みを区民に向けて情報発信するためのアイデアとツール、PR戦略を提案しました。年度末には、東京都環境局主催「食品ロス・使い捨てプラスチック削減ウェビナー」で、都内7大学の学生たちとともに活動報告の機会をいただきました。

目白大学公開講座「SDGsと大学教育」

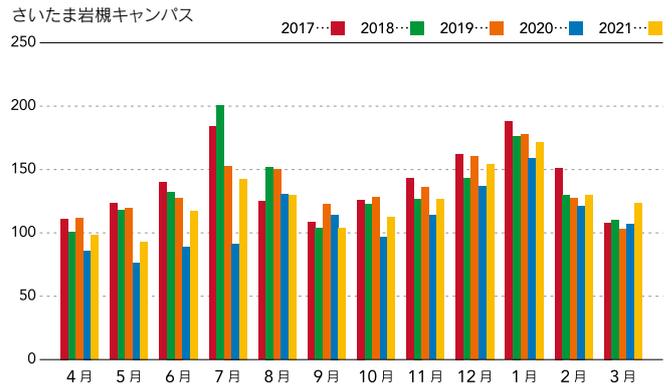
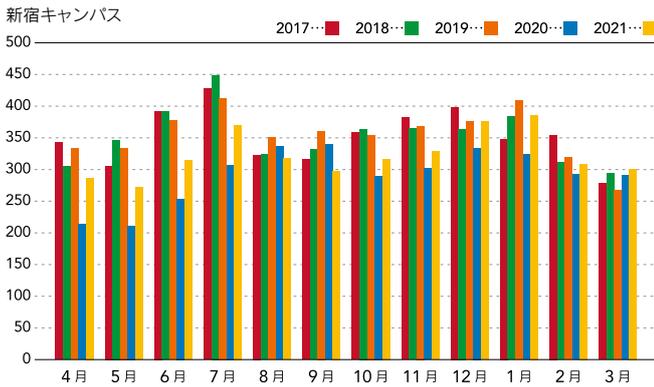
2022年2月9日、目白大学高等教育研究所主催による目白大学公開講座「SDGsと大学教育」が開催されました。本公開講座では、外務省国際協力局地球規模課題総括課でSDGsをはじめとした国家間、国際機関と協力を必要とするグローバルな課題に関わってこられた甲木浩太郎氏(外務省 在スリランカ日本国大使館公使)を講師にお迎えし、「地球規模で進む課題と人間社会：SDGsとこれからの教育」と題してご講演をいただきました。「SDGsとは何か」「SDGsと教育との関わり」「SDGsに関する問い」の三部構成で、SDGsを見据えた教育のあり方、これからの社会を生き抜く学生に求められる力について大きな示唆をいただきました。また本公開講座は、2022年度より開設される目白大学「SDGs副専攻」に向けた全学FDの一環としても、SDGsについて考える良い機会となりました。



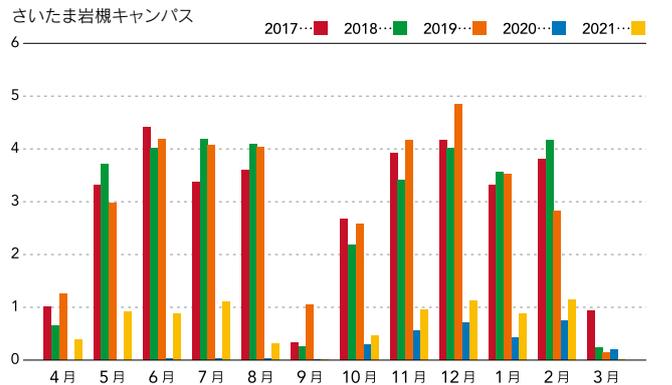
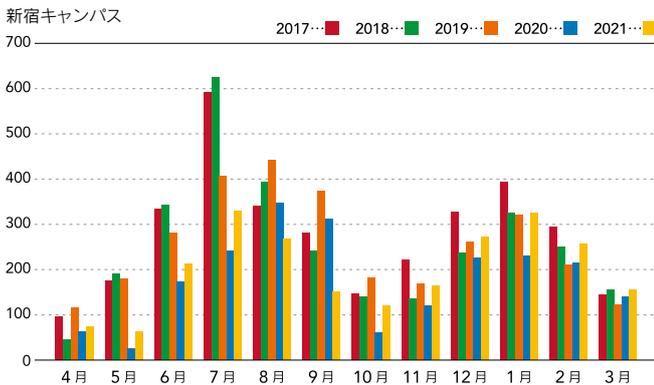
広報チラシ

環境負荷データ > DATA

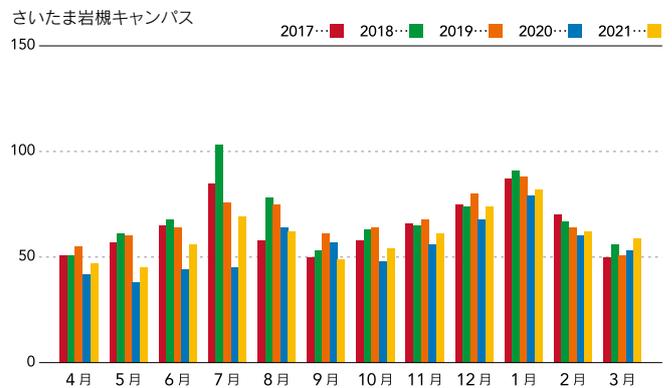
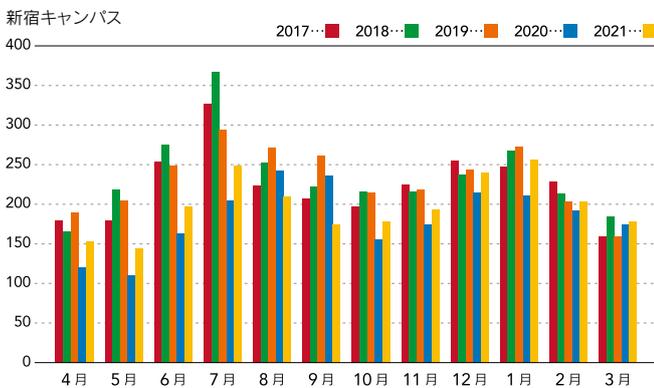
■ 電気使用量 (単位:千kwh)



■ ガス使用量 (単位:百m³)



■ CO2排出量 (単位:t)



■ 新宿キャンパス 東京都新宿区中落合4-31-1 TEL:03-5996-3117
■ さいたま岩槻キャンパス 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320 TEL:048-797-2222
<https://www.mejiro.ac.jp>



設置者	学校法人目白学園 (理事長 尾崎 春樹)	
目白大学	創設年	1994年 目白大学創設
	学生数	5,642名(2022年5月1日現在)
	設置学部・学科	心理学部 人間学部 社会学部 メディア学部 経営学部 外国語学部 保健医療学部 看護学部 大学院
		心理カウンセリング学科(2020年4月開設)
		心理カウンセリング学科/人間福祉学科/子ども学科/児童教育学科
		社会情報学科/メディア表現学科/地域社会学科
		メディア学科(2018年4月開設)
		経営学科
		英米語学科/中国語学科/韓国語学科/日本語・日本語教育学科
		理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科
	看護学科 国際交流研究科/心理学研究科/経営学研究科/生涯福祉研究科/言語文化研究科 看護学研究科/リハビリテーション学研究科	

目白大学短期大学部	創設年	1963年 目白学園女子短期大学創設(2000年目白大学短期大学部に名称変更)
	学生数	457名(2022年5月1日現在)
	設置学科	ビジネス社会学科/製菓学科/歯科衛生学科(2019年4月開設)

